

第 1 回 館山市議会定例会会議録

(第 3 号)



1 平成2年3月9日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1番 脇田 安保	2番 永井 龍平
3番 田沢 勝信	4番 庄司二三男
5番 岩村 勝弘	6番 山崎 雅己
7番 生稲 陞	8番 鈴木 勝美
9番 山口 康雄	10番 鈴木 忠夫
11番 神田 守隆	12番 榎本 春光
13番 山中金治郎	14番 小宮 利夫
15番 横溝 功	16番 石井 昌治
17番 石井 謀	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	20番 福原 勳
21番 辻田 実	22番 黒川 平治
23番 流山源次郎	25番 渡辺 昭夫
26番 近藤 好雄	27番 林 豊
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 半澤 良一	助役 小倉 澄男
収入役 渡辺 弘	市長公室長 錦織 茂
総務部長 渡辺 秀夫	民生部長 小幡 清之
経済部長 安西 良一	水道課長 鈴木 信一
教育委員会 委員長 正木 高剛	教育委員会 会長 福原 修

1 出席事務局職員

事務局長 川上 義雄	事務局長補佐 兵藤 恭一
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 加藤 浩一	

# 1 議事日程（第3号）

平成2年3月9日午前10時開議

## 日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（林 豊君） 本日の出席議員数27名、これより第1回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

### 行政一般通告質問

◎議長（林 豊君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

質問の方法等は昨日と同じであります。

これより順次発言を願います。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） 御質問を申し上げます。

まず最初に、次期5カ年計画の策定に関連をいたして質問を申し上げます。平成3年を初年度とする次期5カ年計画は、市制50周年から21世紀に向かう館山市の方向を決定する重要な使命を持っているものと思います。そこで、私は半澤市長が常々申しております活力ある市政を実現するためには、市政の大きな転換を図り、経済第一主義の市政に切りかえ、産業基盤、経済基盤を充実させるようにしていかなければならないと思っておるのでございます。この立場から5項目にわたり質問を申し上げます。

まず第1は、現在の第1期5カ年計画でございます。この計画は、最初に計画年度の人口を5万8,000人としております。しかし、計画を決定したときの60年の人口は5万6,035名でありました。しかし、5年後の現在の人口は5万5,577名であります。そして、2,000名の増加目標に対しまして、逆に458名の減少となっているのが実情でございます。市勢の総合的指数は人

口により決められます。人口の減少は、その数字分だけマイナス点であると評価できるわけでございます。市長は、東口の再開発事業以外はおおむね事業計画は達成されているものと述べられております。しかし、人口が減少している点は歴然としております。第1期5カ年計画は、このままでは落第点であります。この点をどのようにお考えになられるのか。また、人口の減少した理由と原因についてあわせてお答えをお願い申し上げます。

第2の点は、道路交通網の整備についてお伺いをいたします。市は、次期5カ年計画の策定に当たり、第1期では計画事業は目標を達成したと言っております。私も数字的には達成されたものと受けとめております。ところが、館山市が昨年7月に実施した市民意識調査の結果を見ますと、日常生活の満足度は不満とやや不満の人で70%もおるわけでございます。満足と答えた人はわずか4.1%であります。市は、基本計画を立て、それを達成しても市民は満足どころか、不満を持つ人が多いということです。したがって、第1期基本計画は市民生活に密着したものでなかったと言えるのではないのでしょうか。この点の評価はどのようにお考えになっておられるのか、お尋ねをいたす次第でございます。

第3は、駅前の開発と整備についてお伺いをいたします。この駅前再開発は、市民の最も期待している政策でございます。市長は、前にも質問しましたが、15年前に私と選挙を争ったときの第1の公約に掲げたものでございます。政治家は、公約を守らなくてはうそつきになります。第1期基本計画の進捗状況の説明の中で、東口地区市街地再開発事業を除きおおむね計画事業が達成されたと述べられておりますが、再開発事業ができなかったということは、半澤市長の政治責任に及ぶ重大なことであると思います。この点についての御所見をお伺いする次第でございます。

第4は、公共下水道の事業実施の見込みについてお尋ねをいたします。12月議会で質問をしましたが、その中で、市民の合意が得られるならばという条件つきながら、平成4年までに事実上の事業着手である実施設計が可能であると考えておりますと答弁されました。そこで、私は公共下水道をつくることは、長い間の市民の願望であって、市民は百も合点していると思います。

実施に移せないのは、市長の決断だけではないでしょうか。次期計画に実施計画を盛り込めるでしょうか、明確な御答弁をお願いいたします。

第5は、館山湾と河川の浄化についてお尋ねをいたします。2月19日の全員協議会で報告された館山湾の汚泥堆積調査の結果報告を見ますと、館山湾には汚泥はないということでございます。しかし、軟泥層のあることは、大腸菌の検出されていることとともに明らかでございます。そこで、質問をいたします。この軟泥層は撤去できないものなのでしょうか。

また、過日庄司議員が洋上シンポジウムの際に発表した、館山海岸にはナミノコが生息しなくなってしまった。この状況を見れば、館山湾の汚染の深刻なことがよくわかるはずだと言われておりました。海岸に再びナミノコが生息できる海にすることは、観光地館山にとって絶対的緊急な課題であると思うのでございます。次期基本計画には、館山湾の浄化対策の具体的な実施が盛り込まれるでしょうか、この点について明らかにしていただきたいと思っております。

2番目の質問に移ります。任期満了の近い半澤市長の進退について御質問を申し上げます。12月議会の飯田先生の質問に対し、進退は9月定例議会で最終的な結論をすると答弁されております。この点については了解をいたしております。しかし、半澤市長の5選出馬に対しては、市民は異常とも思えるほど関心を持っております。私は、個人的には半澤市長に対しては、先輩として尊敬もし、また15年間の市政においても、教育、文化の面で大きな功績を残されたものと高く評価しているところでございます。したがって、時と場合によりましては、5選を支持する気持ちはないわけではございません。しかし、市民の間には4選連続の無競争は困るという声が充満をいたしております。私も民主主義を至上の政治生命としておりますので、どのような事情があっても、次回の市長選挙は無競争にすることだけは、館山市の民主政治を守る立場から絶対に避けなくてはならないと思っているところでございます。したがって、私の政治責任におきまして、次回の市長選挙は無競争になることだけはあり得ないと断言をいたしておきたいと思うのでございます。

そこで、質問に移ります。第1点は、最近教育委員長が教育委員を辞任されたことでございます。学校で一番大切な卒業式を前に、しかも、平成2年度の教育予算を議会に提案したままの辞任は、よほどの理由があったものと思われる。巷間伝わるところによりますと、市長選挙に出馬の準備のためだとも伺っております。このことが事実だとしますと、前教育委員長は半澤市長の最も信望も厚く、そして若くして教育委員に抜擢され、市の各種審議委員にも常に推薦されており、半澤市長の右腕として大活躍をしてきているところございまして、このことは半澤市長の後継者として自他ともに認められていたところでございます。したがって、議会では9月に態度表明をすると言っておりますが、水面下では教育委員辞任というところまで話が進んでいるのかと思うと心外でなりません。市長は、市民の頂点に立つ聖職でございます。水面下の話は許せません。私の質問が憶測なのか、時が時だけに、教育委員辞任の真相を明らかにしていただきたいと思うのでございます。

第2点は、予算と施政方針のかかわりについて質問をいたします。市長の任期切れの年の予算は、再選を目指す場合は大型化になり、引退をするときは後継者のことを考えて小型になるものが一般的な観念でございます。本年度の予算は、景気を反映してほとんどの市町村が10%以上の伸び率を持つ予算を編成しております。しかし、館山は5.8%と極端に小型でございます。また、一般論として十数年務めたので、辞任しますとか、十数年の実績があるので、私はという独裁者もおります。半澤市長は独裁者じゃないと思うので、これまで施政方針演説の中では、「私は市長就任以来、人間尊重を基本に」と言っておりましたが、今回の施政方針におきましては、「私は昭和49年以来、4期16年を通じ一貫して人間尊重」と述べられておる点でございます。こうした施政方針の変化を見ますと、市長にはその後心境の変化があったと思われるわけでございますけれども、予算と施政方針のこうした兆しを、引退に傾いておるものというふうに受けとめてよいのでしょうか。この点について伺います。次第でございます。

第3点は、平成元年度スタートする次期基本計画でございます。5選を前

提にして策定するのか、しないのか、これは大きな違いでございます。市長の所信をぜひ伺わせていただきたいと存じます。

第3番目の質問に移ります。サカモトデパートの閉店と商業政策についてお伺いをいたします。サカモトデパートは、館山駅前の館山市で一番よい場所でございます。しかも、市内では唯一の総合デパートでございます。このデパートが売り上げ不振になり、閉店に追い込まれたことは、大変な問題であると言わざるを得ません。前の議会でも質問をいたしましたが、大型店の進出と既存商店の関連については、現在深刻な状態にあると言われております。市内最大の商店街である銀座通りでは、相次いでしにせが閉店していることとあわせ、市の商業政策が問われているところでございます。この点についての市長の所感と対策について、お伺いをいたしたいと思うのでございます。

また、市長は商業政策の抜本的な見直しと転換を考えておられるのか、この点についてもあわせてお伺いをいたします。

4番目の質問に移ります。リゾート開発の現況と課題についてお伺いいたします。まず最初に、昨日の質問で永井議員と交わされた市民意識調査に基づいて質問をいたします。市民でリゾート開発に賛成な人は14.8%でございます。そして、自然保護を優先する人が40.1%、地域全体の振興につながればよいとする人が29%おるわけでございますけれども、この点をいかがお考えになられておるのか、お伺いをする次第でございます。

現在リゾート開発が実施可能な計画になっている点につきましては、昨日の日下議員の質問と重複いたしますので、この点については省略をいたしたいと思います。

5番目、県民体育大会の開催とスポーツの振興についてお伺いいたします。時間が迫っておりますので、項目だけを申し上げて、あとは再質問の中でいたしたいと思います。1つは、県民体育大会の4種目の受け入れにかかわるところの予算と受け入れ実行委員会の設置については、どのようにお考えになっておるのかお伺いをいたします。

2番目には、スポーツ審議会の設置とリーダーバンク制度の運営について



どのようなになっておるのか、お伺いをする次第でございます。

3番目には、小中学校の体力と競技力の向上と体協の若返りについては、どのようにお考えになっておるのか、この点について御質問を申し上げる次第でございます。

時間の関係でもって、質問の内容が不十分でございましたので、この点につきましては再質問の中でもって改めて御質問申し上げたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 辻田議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点でございますが、その小さな第1点、現在の基本計画は人口を5万8,000名を見込んでいるが、逆に減少した点についてという御質問でございますが、現在の基本計画人口5万8,000人は、昭和45年から55年までの人口増加傾向を示した国勢調査をもとに、東京湾横断道路や上総新研究開発都市構想などの社会経済情勢の動向等を勘案した上で、目標人口として平成12年人口をおおむね6万人と想定した中で推計されたものでございます。人口減少の理由といたしましては、自然動態において、昭和50年代まで年間300人程度の自然増があったのに対し、昭和55年から減少に転じ、昭和60年には50人、最も近い昭和63年はマイナス33人と逆転しており、自然増が社会減を補うことができない状況となっていることが大きな原因でございます。また、基本計画事業は構想、計画段階のものや、検討を進めるもの、継続的に実施するものなど、さまざまな熟度のものがございます。したがって、事業が計画どおり進展したとしても、直ちに人口増加に結びつかない面があることになるわけでございます。次期基本計画での人口見込みに関しましては、平成12年人口の6万人を目指して、海洋性リゾートタウン建設を柱とした産業の振興を積極的に推進するなど、内的な人口増加要因や過去の人口推移、さらには社会経済情勢の動向等を十分に検討して推計してまいりたいと存じます。

次に、第2点、道路交通網の整備についての御質問でございますが、道路

交通体系の整備につきましては、自動車交通の増大、市街地の拡大等により、安全性や快適性確保に対する市民の要望も高く、従来から道路の舗装化を重点施策として実施してまいりました。その結果、舗装率94%と進展しております。今後は市道について、道路排水整備を重点的に実施してまいりたいと考えますが、市街地だけの整備状況を見ましても、8年程度の整備期間を要するのが実情でございます。これらについては財政状況等を考慮し、計画的に実施してまいりたいと考えております。また、5カ年計画の中でいうところの目標の達成とは、その期間内における事業目標が達せられたことをあらわすものでございます。

次に、小さな3点、駅周辺の再開発と整備の実施についての御質問でございますが、最初になぜ今期5カ年計画の中で館山駅東口地区市街地再開発事業は実施できなかったかとのことでございますが、市街地再開発事業につきましては、現在までに関係町内会には説明会、地元権利者には全体会議、グループ別会議、戸別訪問を通じて御説明をし、御理解、御協力をお願いいたしてまいりましたが、いまだ地元権利者の方々の合意が得られず、事業化に至っておりません。まことに遺憾でございます。

また、次期5カ年計画にのせていくかということでございますが、今後地元権利者との合意形成が得られた段階で、基本計画の見直し、地盤調査、建築設計、資金計画等の検討を行い、事業化を推し進めてまいりたいと存じます。

次に、小さな第4点、公共下水道の事業実施の見込みについての御質問でございますが、今年度策定の基本計画をもとに、平成2年度に事業計画の策定を行い、その後都市計画決定及び事業認可手続を進めるわけでございますが、順調に住民の合意形成が図られ、法手続が進むとするならば、平成4年度には実施設計を行い、平成5年度に工事着手を予定しております。

次に、小さな第5点、館山湾と河川の浄化の方策についての御質問でございますが、館山湾汚泥調査結果によりますと、一般的な黒色汚泥は全地点とも確認されておりません。しかしながら、一部地域ではゼロから12センチメートル程度の軟泥層が見られております。軟泥の処分方法といたしましては、

しゅんせつによる処理及び表面を良質土により被覆する原位置処理の方法がありますが、館山湾での層厚の薄い軟泥の処理につきましては、現在の技術では不可能でございます。

次に、大きな第2点、任期満了の近い半澤市長の進退について伺うという御質問でございますが、小さな御質問の第1点から第3点まで、いずれも私の5選とは関係ございません。私は、常日ごろから活力ある文化福祉都市の実現に向けて意欲的に取り組んでいるところでございます。

また、ついでながら、平成2年度の予算の編成につきましては、長期的視点に基づき計画的に進めているまちづくりの中で、地域振興対策のほか都市改造事業や公共下水道、道路整備など生活環境整備を重点に積極的な財政投資に努めたところでございまして、対前年度の比較につきましても、50周年記念事業等、特別な要因を除きますと、おおよそ1割の伸びとなっております。

次に、大きな第3点、サカモトデパートの閉店と商業政策についての御質問でございますが、第1点、サカモトデパートの閉店の理由とその所感についての御質問でございますが、サカモトデパートは企業の方針により、これまでの呉服衣料品、食料品等の部門から、家庭電化製品部門に変えると同っております。したがって、企業の営業方針の転換によるものでございます。

次に、第2点、市の商業政策の抜本的見直しと転換についてということでございますが、当市の商業は古くから安房地域の最大の中心地として栄えてきたところでございます。今後安定した商圈を確保し、さらに発展させていくためには、館山駅周辺の活性化は不可欠でございます。このため館山銀座商店街につきましても、モデル商店街指定事業を進めてきたところでもあり、したがって市の商業政策について見直す必要はないと考えております。今後も基本計画どおり実施してまいります。

次に、大きな第4点、リゾート開発の現況と課題についての御質問でございますが、小さな第1点、市民意識調査によりますリゾート開発について、市民の合意形成が不十分ではないかという御質問でございますが、市民意識

調査の設問の趣旨は、リゾート開発を推進する上での基本的な考え方を尋ねたものでございます。調査結果におきましても、自然との共生を図った開発であれば、推進すべきであるとの御意見が多いと理解しておりますので、今後とも機会をとらえてリゾート開発について市民の御理解を得ながら推進してまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。第5点につきましては、教育長より御答弁を申し上げます。

◎議長（林 豊君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

5の県民体育大会に関する項目でございますが、そのうちの1でございます。県民体育大会の4種目の受け入れにかかわる予算と受け入れ実行委員会の設置という御質問でございますが、1990年度、平成2年度に南部地区で行われます第43回県民体育大会で、館山市では剣道、軟式テニス、体操、バスケットボールの4種目を開催することになっておりますが、このための運営に関する費用は、県で予算措置しております。市といたしましては、受け入れのための予算は特別に計上してございません。

競技の運営につきましては、県体育協会加盟競技団体が主管いたしますので、受け入れ実行委員会の設置につきましては、今後市の体育協会及び当該競技団体と協議してまいりたいと存じます。

次に、小さな2でございますが、スポーツ審議会の設置とリーダーバンク制度の運営についてという御質問でございますが、スポーツ審議会の設置につきましては、館山市では現在のところ設置しておりません。設置しておる市、町の運営の実態を調査した上で、今後設置するかしないかを検討してまいりたいと存じます。

スポーツリーダーバンクにつきましては、市として設置すべく検討してまいりましたが、1989年度、平成元年度、本年度でございますが、本年度から県教育委員会で県民の体育、スポーツ活動の振興を図るため、スポーツ活動指導者の登録、紹介等を行う千葉県スポーツリーダーバンクを設置し、運営

することになりましたので、今後はその中で活用を図ってまいりたいと思います。

次に、小さな3、小中学生の体力と競技力の向上と体協の若返りについてという御質問でございますが、小中学生の体位、体力の向上を高めることに関しましては、現在各小中学校で健康・体力向上推進委員会を組織し、正課体育の年間計画の見直しと強化、業間運動とスポーツ活動の推進等の中で、小中学生の体位、体力の向上に努めております。

競技力の向上につきましては、小、中学校体育連盟を通じて促進してまいりたいと存じております。

また、県民体育大会等に備えて選手の競技力の向上を図るために、1990年度、平成2年度の市の体育協会の補助金の中に、選手強化費として100万円の予算を計上してございます。

なお、体育協会の若返りの問題につきましては、体育協会の会員自身の自主的判断に基づく問題でございますので、体育協会にお任せしたい、こんなふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 21番議員辻田 実君。

◎21番（辻田 実君） 順次再質問をいたしてまいりたいと思います。

最初に、次期の基本計画でございますけれども、ただいまの答弁でございますると、人口についてはいろいろな実績からの推移ということで把握しておるんだということでございますけれども、これはそういうことなんですか。私は、基本計画に盛られる人口の目標、すなわち現在ある5カ年計画の目標は、今も答弁ありましたように、平成2年には5万8,000人にしていきたいということでもって、これは市の人口的な努力であるわけでございます。それに基づいて人口というものが市勢、それからまた市の経済力、そういうものの総合的な指数であることは、これはもう一般的な常識でございますし、またそのような状況にあるわけございまして、どんなに市勢が活力ある云々と言っても、人口が減っているという中では、イコールもう結論的にはその市勢は衰退しておるとというのが現況じゃないか。そうすると、

今度平成12年には6万人を推定しておるということについては、市がいろいろな基本施策——産業の振興だとか、商業の振興、観光の誘致、そういうふうなものをしていく中でもって、6万人にしていくなんだという、こういうことではないのか。今の答弁でございますと、大体趨勢として55年までは増加傾向にあったけど、55年を境にして減少傾向にあった。何か一般的な学者がどっかの統計的にそれを見ているということでもって、主体性が全然ないんですけれども、この点については次の計画に掲げているところの人口というんですか、これはどのようにお考えになっておるんでしょうか、お尋ねいたします。

◎議長（林 豊君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） まず最初に、出生率の低下の問題でございますが、低下が大きな要因であるというふうに市長も答えておりますけれども、死亡につきましては一定水準で推移しているわけでございまして、ちなみに59年から63年までの人口動態を見ますと、59年で出生が629人、死亡で521人で、108人の増でございます。それが61年には出生が522人、死亡が476人で46人の増でございます。それが63年になりますと、出生が483人で、死亡が516人で、33人のマイナス、こういうような逆転をしているような状態でございます。ちなみにまた、年間の増減を見ましても、社会減と合わせますと年間の増減で59年がマイナスの82人、60年がマイナスの156人、61年がマイナスの356人、62年でマイナスの262人、63年度でマイナスの92人、こういうような状態になっております。

それから、直接人口増につながる地域振興対策、今後の5カ年間で積極的に実施していかなければいけないんじゃないか、こういうような御質問と思っておりますけれども、ただいま申しましたように、そういうような中で直接的に人口につながる施策といたしましては、企業誘致が考えられるわけでございますけれども、その大きなネックとなっているものが道路と水問題でございました。しかしながら、長年の努力の成果がようやく実を結ぼうとしているわけでございます。あるいは東京湾横断道路が平成7年には完成をしますし、こういったようなために海洋性リゾートタウンの建設を柱とした地域振興対

策と都市基盤の整備を重点の施策を展開をして、魅力ある地域づくりを推進し、活力ある文化福祉都市の実現を目指してまいりたいというような考え方を持っております。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 21番議員。

◎21番（辻田 実君） 人口の自然増云々は、そういうことを聞いているわけじゃないんです。要するに基本計画の中で、活力ある文化福祉都市をつくるんだということでもって、そして館山市の人口もふえていくんだ。これが1つのアピールじゃありませんか。市民は、そういうことについて、もう限らない期待をしているわけです。今人口増では——館山は人口の減の原因じゃないんです。社会減です。入ってくる人もいるんでしょうけども、大体館山でもって高校卒業した人で館山に残る人が何人いるんでしょうか。80%以上がもう出てしまうじゃないですか。その数は1,000人を超えているんじゃないですか。その若い人たちが館山に就職できるということになれば、これはもう、すぐ5年、6年でもって5,000、1万もふえるんです。それは、館山の経済、産業政策が薄弱だから、農業はだめになる。富士ディーゼルはつぶれちゃう。商店街は軒並みに営業不振になっていく。

先ほどの答弁の、次に移りまするけれども、中でやりまするけれども、サカモトデパートは電化に変わっていくと言っていまするけども、会社の方でもって新聞発表した中においては、売り上げの不振により閉鎖をすると書いてあるじゃありませんか。そういうごまかしをしてはだめなんです。ますますそういうことでもって減っていく、それは館山市は本当に産業政策、経済政策やっているかどうかということ。それがないと、水の問題、道路の問題確かにある。あるんならあるものを具体的に決めて、平成2年までそういうことあるのわかっていたんです。それが市の当局者が、水が来るのか、また道路ができるのか。そして、できないということになれば、率直に人口は5万6,000から5万5,000に減る。やむを得ないという形の中まで計画進めなければ、それはもういいもの、いいものだけつくって、その内容は何にもない。そうすると、出生人口だとか、自然減があるからということでは、

これはもう姿勢があるのか、ないのかというのが問われるんじゃないでしょうか。

私は、その点について1つは、やはり半澤市長自身がつくられましたところの5カ年計画、この根本であるところの人口がこれだけ減ったということについて、反省とその経過については、これはもう市長自身の責任問題だと私は思います、基本的に言って。自分で出して、そしてこれでもってやったわけですから、それはもう社会減云々なんていう、そういう逃げ口上のものじゃない。時間がないから、それ以上申し上げませんが、私はそういう面については、今の市政の中について、基本的に経済政策、産業政策、そういうものが欠落しているというふうに思われるわけでございますけども、そういう点についての反省なり、そういうものはないのか、その点についてお伺いいたします。

◎議長（林 豊君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） ただいま辻田議員さんのおっしゃるようなことも確かにわかります。わかりますが、ただいま私から申し上げましたように、やはりどうしても人口の自然増がだんだん減りまして、それが逆転しているというような状態でございますので、今後はそういうことでなくて、あくまでもそういう企業誘致とか、そういうふうなもので今後は人口増を図ってまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 21番。

◎21番（辻田 実君） そういう他人ごとじゃ、今の館山市は大変な状況になっているわけでございますから、この点についてはこれ以上質問いたしませんけれども、ひとつ次の基本計画については、やはり市民の実態に即して、館山市の市民のための基本計画でございますから、人口が減るんなら減る。産業政策ができなければできない。そういうことをはっきりしていったらいいんです。非常にバラ色の、そういうものをして、わあすごいなと思っているけど、内容が何もない。今回の起点に当たって、5カ年計画はほぼ達成しております、達成しておりますけど、市街地整備についてはでき



ませんでした。しかし、人口は減っております。そして、道路、その他については不満も非常に高い。こういうことじゃ私は問題にならないというふうに思うのでございまして、それはいずれ5カ年計画の審議の中でもって深めたいと思いますので、よろしくお願いします。

もう一点この点についてお伺いいたしますけれども、道路については8年程度かかるということでございますけれども、館山に住みにくいという人のもう大体その理由の1番が、道路が悪いからということがもう50%近く、40何%もある。これはどういうことなのか。市の今道路政策が不十分と言わざるを得ない、率直に言って。5カ年計画の中でもってあれだけ達成してきて、今になれば道路については8年ぐらい先になる。8年ぐらい先になったら、道路の問題については、そういった不満というものについては、これは不満は全然ないというわけじゃありませんけれども、満足というのと不満というのは逆転するようなところまでいくのかどうなのか、真剣に考えてもらいたいと思うんですけども、その点についてはどのように考えているのか、お答えをいただきたいと思います。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 舗装率が現時点で94%ということでございますが、これは5年たちますと2万4,000メートル整備するということでございますけれども、これはちょっと今計数が出ておりませんで、もうしばらくちょっとお待ち願いたいと思います、恐れ入りますが。

◎議長（林 豊君） 21番。

◎21番（辻田 実君） その間にじゃもう一つ、館山湾の汚泥の問題については、汚泥はないけど、軟泥層がある。先ほど申したように、あの調査結果については、私は非常に肩透かしを食ったような感じなんです。現実的にも、先ほど庄司さんが言われましたように、もうナミノコもないような海では、もう実際に汚れていることは事実だ。こういうことでございますから、それもそのとおりだと思うわけでございます。軟泥層は、今の技術では撤去できない。撤去できなければ、館山湾は今のままもう当分放置しておくのか。現実的にはもう地元の子供なんていうのは、海水浴にはほとんど行き

ません。西岬だとか、向こうの方に泳ぎに行くというような状況でもって、何も知らない都会の人が来て泳いでいって、がっかりして帰るというのが多くの趨勢だということは、もう御案内のとおりでございますけれども、そうすると現在のままじゃもう手の打ちようはない。現状のままとすることなのかどうなのか、そのように理解していいのか、その点についてお伺いをいたします。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 館山湾の汚泥関係でございますが、実はこの調査をしたきっかけも、恐らく汚泥があるだろうということから調査をしてみようということでもってしたわけでございます。その調査の結果、これは調査しましたのは新日本気象海洋株式会社といまして、かなりこういった面での実績のある会社、県から推薦を受けた会社でございますが、そこに実施してもらったわけでございますが、いわゆる黒色汚泥と言われるものはない。軟泥がある。じゃ、軟泥と汚泥はどう違うかということになるわけでございますけれども、要するに汚泥というのは、汚染された泥であるということで、その一般的な目安としましては、これは水産用水基準でございますけれども、強熱減量で10%以上、CODがグラム当たり20ミリグラム以上、硫化物がグラム当たり0.2ミリグラム以上ということになると、汚泥だということになるわけでございますけれども、館山湾の海底の底質の調査によりますと、強熱減量が1.5%から5.5%、CODが0.5から9.9ミリグラム、硫化物が0.01から0.13ミリグラム、いずれも目安となっている基準よりもかなり下回っているということで、軟泥だということでございます。

それで、汚染対策でございますが、今まで何回も申し上げますように、最終的には公共下水道ということでございますけれども、その間主要排水路の実態調査をいたしまして、その処理方法を検討して、可能な処理方法があれば各排水路ごとに処理をしていきたい、このように考えております。

◎議長（林 豊君） 21番。

◎21番（辻田 実君） 大体わかりました。しかしながら、これは何とかしなきゃならないというふうに思いますので、また論議は後日に譲りたいと

思います。

2番目の市長の進退につきましては、5選とはかわりはないということでございますから、そのように受けとめておきたいというふうに思います。昨日の新聞等を見ますと、鴨川の市長さんも、前回話し合いでもって、今回は後継者にバトンタッチするというふうなことがあったんだけど、それがどうなるかというふうなことで、生臭い報道等もありまして、どうも館山も同じようなことをしているんじゃないかというふうな感じがいたしまして、そういうことが非常に時が時だけに、市民に誤解を招く点があるかと思うわけでございまして、今の市長の答弁でもって、それらについてはかなり生臭いものがございますので、その旨御了解いたしまして、そのようにひとつ対処していただきたいというふうに思います。

3番目のサカモトデパートの点につきまして、答弁の中では企業の業種の転換だということを言われておりますけれども、しかしながら報道、その他によりますと、営業不振、売り上げの伸び悩みということが原因でもって閉鎖というふうに言われておるんですけども、この点についてはどのようにお考えになっておるのか。市は、あくまでも業種の転換ということでもって受けとめておるのか、この点についてお伺いします。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 私どもの方で伺っておりますことは、あくまでも業種の転換ということでお聞きしております。

それから、先ほどの件でございますけども、舗装につきましてはほぼここ数年で目的が達せられるというように理解しております。

それから、ただいま申し上げました2万4,000メートルというのは、側溝の整備の関係でございまして、これらにつきましては市街地の延長でございまして、全体的には8年ぐらいかかるだろうということでの数値でございます。

不満度についてでございますが、道路改良は、特に幅員数のものかと考えられますので、これについては相当の年月が必要ではないかということと考えられます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 21番議員。

◎21番（辻田 実君） 市長は、先ほど今の商業政策を見直す必要はないということでございますけれども、私は今のような商店街が非常に経営苦しいという中でもって、これを見直す意思がないということであれば、今の市の商業政策の限界であろう。これ以上もう申し上げてもしょうがないことであろうと思うし、また今の状況を克服するためには、我々といたしましてもまた別な観点からやらざるを得ないんじゃないか。非常に残念なことでございますけれども、現状でもって最善だということでございますから、これはもう見解の相違でございまして、やむを得ません。これ以上論議進めても平行線でございますので、取りやめたいというふうに思います。

リゾートの問題でございますけれども、昨日千葉県知事は新しく4月1日から発足するゴルフ場、また現在造成中のゴルフ場については、農薬を一切禁止する。規制要綱を議会に提案したわけでございますけれども、きのうのテレビ、きょうの朝刊等はまだトップ記事でもって大変な問題を出しております。その中でもって、千葉県のゴルフ管理者協会の会長さんは、こうした状況ではもうゴルフ場をつくるなということに値するものでもって、これは非常に大変な問題だ。問題が問題だけに、受けとめましょうというコメントをテレビでも、きょうの新聞にも出ているわけでございますけれども、このことをどのように考えるか。

そして、今館山でもって、きのうの日下議員との質問の中におきまして、今有力なリゾートとしては3カ所ある。そのうち2つは具体的に進んでいる。その計画の3カ所は、全部ゴルフ場中心でございますけれども、こういう状況の中になってくると、かなり見通しが暗くなってくるんじゃないかというふうに思うわけでございますけれども、この点についてはあわせてどのようにお考えになっておるのか、御答弁いただきたいと思います。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 私どもも実はきのうのテレビあるいはきょうの新聞等を拝見したわけでございますけれども、まだ具体的に県の方から何ら指

示が来ておりません。県の方の本旨とするところも十分検討いたしまして、そしてやはり県の指導に基づいて実施をしていきたいというように考えております。

それから、第2点のこれからの開発に影響があるのではないかという点でございますが、これにつきましても全くないということは言えないんじゃないか。いろいろ企業側はそれなりに採算をとということもやはり検討して、再度いろいろ計画を練り直すというようなこともあるいは考えられるということを考えております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 21番議員。

◎21番（辻田 実君） この点については、今後の問題といたしまして、ここでもう一点伺いたいんですけども、市長さんは施政方針、その他の中をもって常に市民と連帯、合意の政治を進めるということをおっしゃっておりますけれども、リゾートについて本当に市民との合意の中でもって進められておるのかどうか、この点について市は今どのように感じていることについて具体的にしたい。

1つは、リゾート開発については、議会の中でもっていろいろな論議がされておりますけれども、具体的な問題になりますと、それはもう民間でやることでもって、市はそこまでタッチしません、企業秘密がございますからということでもって、内容は明らかにされていません。きのうの日下議員の質問の中においても、どういうリゾートがどの程度進んでいるんだ、こういう段階の質問でございまして、その内容がどうかということについては、本当に市民ぐるみじゃございません。この点については、私は市民と相談、また市民と連帯しての開発じゃないというふうに思う。その点が、このリゾートに対して環境問題だとか、いろんな利益があれば云々という問題が出てきているんじゃないか。この点が1つ。

2番目には、いろんなリゾート開発の委託研究をしておりますけど、その中に市民の声が反映されるというのはありません。ほとんど部外の学者とか、専門家というものであって構成されて、この人たちのやっているこ

とでもって、市の中の実態というものが本当にわかっているのかどうなのか。結論が出たものについては、こういう結論でございますから、お願いしますということでもって、上らおっかぶせてくるのかどうかわかりませんが、白浜町におきますところのゴルフ場の問題、さらには富浦町、三芳村についても、いざ出してみれば、住民の方が大反発でもって右往左往しているという状況じゃありませんか。少なくとも21世紀を目指す館山市の大プロジェクトであるところのリゾート開発については、もうちょっと市民の声、そして議会の意思というものを、もう計画の段階から進めていかなければ大変なことになるんじゃないでしょうか。進める方向だけわかっています。市民も方向は賛成しています。私も賛成でございます。しかし、その内容もないまままでどっかでもってやられているということについて、非常に不信であるんですけれども、この点についてはちゃんと今市民の合意、そして議会ともよく協力しながら、そして本当に連帯した、市長が言っているところの市民との連帯したリゾート開発なのかどうなのか、この点については十分理解と合意の上でもってやられているというふうに感じておられるのかどうなんでしょうか。あくまでこのリゾート開発については企業秘密、その他があるから、こういうものについては具体的なものについては公表していかない、こういうことなのか、その点について簡明な御答弁をいただきたいと思います。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） まず、第1点の市民との合意がどうかという点でございますが、これらにつきましてはこれから十分ひとつ市民と話し合います。そしていいリゾートをつくり上げていきたいというふうに考えております。また、そのように努力をしたいというふうに思います。

それから、開発の内容ということでございますけれども、これは現時点ではまだ発表できないということでございまして、これからだんだん実施計画等が定着いたしまして、そして皆様に発表できるような段階になりましたら、これは当然皆様に御説明を申し上げ、そして御理解をいただくというような考え方をしております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 21番。

◎21番（辻田 実君） その点については、そういう言葉は非常にきれいでございますから、それで、はい、そうですかというわけには私はいかないと思うんです。きのうの日下議員の問題にいたしましても、重要指定地域の線引きにいたしましても、どういう線引きをするか。こういうこと等については地元なり、そういう地権者とももう十分合意の上でもってされるべきです。したがって、やはり決定した。実施がもう決まったから——神田議員の質問の中でもそうだったんですけれども、ひとつでき上がったんだから、もうこれでやってもらいたい、こういうことでもって、もう市民には有無を言わせないという現実が非常に多いんじゃないでしょうか。もう少しその前の段階でやられて、リゾートの問題についても、本当にこれからどうなるかわかりません。私は不勉強でもって、だらしのないのかわかりませんが、私は館山のリゾートの内容がどういうふうに進んで、どうなっているのかというのはさっぱりわかりません。かなりアンテナ張って、私なりに一生懸命に勉強しているつもりでいます。情報も集めているが、ちっともわかんない。市民はこれでもってわかっているのかと私は思います。ほかの問題もそうですけども、リゾートはそうです。言えば話し合いをし、合意を得ていきます。決まっちゃってからではだめなんです、そういうのは。その点については、今後十分していただきたい。

それから、5番目の問題で、県民体育大会の問題でございますけども、県がやるからということでございますけども、それはそうだと思うんですけども、スポーツの振興というのは今大変な時期に来ております。海部総理は施政方針の中でもって、スポーツの重要性というのを言っております。そして、文部大臣は、大臣就任の記者会見でもって、文部行政の一番大事なものは何かといったら、これはスポーツの振興でございます、健全な体をつくるような人間ができなければ、日本の民族は滅亡だということでもって、記者会見の冒頭にそう言いました。劇的であったんですけども、ここら辺と考え合わせて、ただ県でやるというだけでもって任しておいていいのかどうなのか。市がこれを機会に、市民のスポーツ振興という面では、予算等も組んでやっ

ていかなきゃいけないんじゃないかと思うんですけども、これらについては十分検討していただきたい。

時間がございませんので、以上をもって終わりたいと思います。

◎議長（林 豊君） 以上で21番辻田 実君の質問を終わります。

次、3番議員田沢勝信君。御登壇願います。

（3番議員田沢勝信君登壇）

◎3番（田沢勝信君） 私は、既に5点にわたって通告してございますので、順次御質問を申し上げます。

質問の第1点目は、市長が施政方針で明らかにされたインダストリアルパークについてでございます。先ほど辻田議員から、館山市の人口の減っている原因について論議がございました。若い人の地元定着を促すような新しい産業が育っていないこと。そのため例えば館山職業安定所管内の高校卒業者の半数以上が県外に就職を余儀なくされるなど、館山市を働く者の立場から見た場合、市民の3分の2を超す方々が不満を持っておられます。いわゆる職と住の一体のまちづくりが求められて久しいわけですが、そういった意味では産業振興の総合的施策の強化が必要であります。

そこで、具体的に質問に入りますが、この間産業振興基礎調査、企業立地基本計画調査等を行い、産業の振興にかかわる方向性も明らかになっているかと思われませんが、それらの調査結果はどのようなになっておられますか。

また、今年度よりインダストリアルパーク、いわゆる公園や運動施設を兼ね備えた工業団地を整備していくというふうになっているわけですが、このインダストリアルパークの概要はどのようなものなのか。特にどのぐらいの規模なのか、どのような企業を想定しているのか、あるいはどこに、どのような手法で整備なさろうとしているのか、現時点で明らかになっている点で結構でございますので、お答え願いたいと思います。

次に、第2点目は館山駅東口再開発についてでございます。西口の土地区画整理事業は、いよいよ事業認可に向け行政としても着々と準備が進められ、また関係者の皆さんによって、区画整理事業と相まって、どのような魅力ある商業集積を行っていくのかという研究も進められているというふうに伺っ



ております。片や東口の再開発については、申し上げるまでもなく入り口段階でとどまっているという現状のままであります。その原因について、これまでたびたび議会で論議されてまいりましたので、あえてここで繰り返すことは避けたいと思いますが、昨今の大型小売店舗法をめぐる動向の中で、消費者にとっても、商業者にとっても一日も早い打開策が望まれていることもまた事実であります。

そこで、具体的に質問いたしたいと思いますが、東口再開発に向けた話し合いの進行状況と、今後の市の対応策と見通しについてどのようにお考えになっているのか、市長の所見をお聞かせ願います。

次に、第3点目の質問は、市水道の水源の保全対策についてであります。市の水道のうち神余、中里、犬石、相浜、布良地区等へ給水を行っている神余浄水場がございます。この神余浄水場の水源の保全対策について、お尋ねしたいと思うわけでございますが、この水源近くでかねてより館山建材さんが山砂の採取を行っているということは、御承知のことと思います。昨年あたりからこれらの山砂採取も、水源である神余川に接するところまで進められており、しかも現在でも川に沿って山砂採取のため木々の伐採が行われております。山砂採取の濁った水が直接神余川に流れ込んでいるような状態でございます。神余浄水場の水源として、量的にも、質的にも良好な水源確保のための対策が必要かと思うわけでございますが、市の対応策についてお尋ねをいたしたいと思います。

次に、第4点目の質問といたしまして、都市公園の整備について2点ほど伺いをいたします。まず、その第1点として、リゾート整備に関連するウェルネスパークの整備について、その基本的な考え方、整備しようとする位置、規模、整備の内容、あるいはウェルネスパーク整備のうち都市公園として整備する公園の規模、内容、あわせて建設費用はどのような額になるのか、整備の基本的な事柄について明らかにしていただきたいと思います。

また、2点目として、既存の都市公園の充実については、さきの12月議会でもとりわけ児童公園、あるいは都市公園ではありませんが、特に児童遊園等の整備充実について要望もしてまいりましたが、今回は沖ノ島公園の一層

の内容の充実した整備ができないものかどうか、お尋ねしたいと思います。率直に申し上げて、沖ノ島公園は市民の間でも、また観光客の皆さんからも余り活用されていないというのが実情でございます。沖ノ島は、自然公園内にある風致公園という性格から、手を加えず、自然のままにしておいた方がよいという考えもありますが、余り利用されない都市公園というののもいかなものでありましょ。自然を生かしながら、一生涯を通して記憶に焼きつくような、子供たちが生き生きと活用できるような、冒険的で、魅力ある公園へと整備をしてはと思うわけでございますが、市長はどのような考えでありますか、お聞かせ願いたいと思います。

最後に、第5点目の質問として、小学校低学年のいわゆるかぎっ子と称される児童を対象とした学童保育の実施ができないものかどうかという点について伺いたします。近年市内の世帯構成を見てみましても、核家族世帯の増加傾向にあわせて、婦人の働く機会も多くなり、共稼ぎの世帯が大変多くなっておりますことは、御承知のとおりでございます。義務教育就学前の保育に欠ける児童の健やかな保育を目的とした保育行政も、このような社会変化に伴い、ゼロ歳児保育の実施あるいは延長保育の実施など、児童の保育行政の充実によって、婦人の働く機会及び社会参加を側面から支えてきたことは、高く評価されてよいと思います。

さて、間もなく卒業式、また入学シーズンを迎えるわけですが、とりわけ小学校新1年生を持つ共稼ぎ世帯の若い夫婦にとって、これ以降の1年、2年は保育行政、教育行政の狭間にあって、学校から帰宅した後の子供さんの世話はどうするのか。あるいはまた、子供さんが1人で留守番が本当にできるのだろうか。そういった大変な苦労、不安の絶えない時期がしばらく続く時期でもあるわけであり。そうした現状から、館山市で何とか小学校低学年の子供たちを対象にした学童保育を実施してもらいたいという切なる要望を多く聞くわけでございますが、現状を調査の上、学童保育をぜひ実施してほしいと思うわけですが、この点について市長のお考えをお聞かせ願いたいと存じます。

以上、5点にわたって御質問を申し上げましたが、市長の御答弁によりま

して再質問をいたしますので、よろしくお願いいたします。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 田沢議員の御質問にお答えをいたします。

大きな1点、インダストリアルパークについてでございますが、その中の小さな第1点は、誘致対象企業でございますが、館山のリゾートイメージに適合する業種で、地域への環境負荷が小さい、節水型の業種が望ましいと考えております。具体的に言えば、新素材、産業用エレクトロニクス、光産業、情報産業等の先端技術産業でございます。

第2点のインダストリアルパークの概要でございますが、位置につきましては、62年度に調査した産業振興基礎調査の結果を踏まえ、館野、九重地区を検討しております。規模及び事業費等につきましては、今後計画づくりを進める中で明らかにしてまいりたいと考えております。

小さな第3点の整備の手法についてでございますが、事業主体、用地確保の方法等今後検討してまいりますが、市単独ではさまざまな課題がございますので、県と一体となって推進してまいりたいと考えております。

次に、第2点、館山駅東口再開発についてでございますが、館山駅東口地区市街地再開発事業の事業化に難色を示している方々との話し合いの状況はどうかという御質問でございますが、今年度は11月に2回に分けて会合を開きました。また、御出席いただけなかった方々につきましても戸別に訪問をし、話し合いを行ってまいりました。その中で、地区内外に代替地の欲しい方、早期実現を望む方、代替地をもらっても自分の望む建物が建てられなければ嫌だとおっしゃる方等、それぞれ意見は分かれています。現在のところ、その後の進展は見られませんが、今後とも十分時間をかけまして、地元権利者と話し合いをし、調整を図りながら事業化に向けて推進してまいりたいと考えております。

第3点、水源保全対策についてでございますが、特に神余ダム周辺の土砂採取に対する水源保全対策という御質問でございますが、土砂採取に際しましては、水源の流域に隣接しているため、水源に影響のないよう万全の措置

を講ずることとした意見書を県に提出いたしまして、県においても指導をしているところでございます。市といたしましても、引き続き監視、指導を行い、水源の保全に努めてまいりたいと考えております。

次に、第4点、都市公園整備に関する御質問でございますが、まず第1点、ウエルネスリゾートパークの概要についてでございますが、現在基本計画策定中でございますので、位置、事業費等明らかにできませんが、都市公園区域及び民間開発区域を含めまして、おおむね150ヘクタール程度の規模で検討しております。特にウエルネスをテーマとして、都市公園区域には既存の運動公園との整合を図りながら、各種のスポーツ施設等を検討しております。この計画を進めるに当たっては、地域住民の意向調査、また有識者等で構成する調査委員会の意見を参考に策定作業を進めているところでございます。

次に、沖ノ島公園についての御質問でございますが、沖ノ島公園は周囲900メートル、面積4.6ヘクタールで、島には保全すべき海浜植生、植物群落がございますので、昭和53年に行いました館山市海浜開発診断に基づき、人工的な施設の設置は最小限にとどめ、植生の保全を図りながら、市民の海浜レクリエーションのための風致公園として位置づけ、整備してきたところでございます。したがって、今後ともその方向での必要な施設整備を行ってまいりたいと考えております。

次に、第5点、学童保育についてでございます。学童保育の設置についての御質問でございますが、現在留守家庭児童数は小学校1年生39名、2年生55名であります。帰宅後の状況、家庭での意見等具体的な実態把握が十分ではございませんので、今後さらに調査を行い、対象児童の実態や児童を取り巻く社会情勢等を考慮しながら、今後の課題として前向きに検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎議長（林 豊君） 3番議員。

◎3番（田沢勝信君） 大体おおむね答弁でわかりましたが、何点かもう少し明らかにしていただきたい点もございますので、再質問を行います。

最初のインダストリアルパークについてでありますけども、ただいまの答

弁ではこの工業団地——工業団地というふうに言ってよかろうというふうに思うんですが、ここに最先端の企業を誘致していくんだ、そういったお考えのようでございますけども、いま少し、既にこれは市の方で産業振興の基礎調査をやられて、今後の産業の振興方策、この中に出ているわけでありまして、具体的に工業団地を整備して、どのぐらいの言ってみれば雇用関係を考えて工業団地をつくろうとされているのか、その辺まで調査が進んでいるのかどうなのか、教えていただきたいというふうに思いますが。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） まだその辺までの調査は進んでおりません、現段階では面積的にこれが県等をお願いした場合、これは最低30ヘクタールですか、それ以上ないと県もいけないということで、その辺は大体つかんでおりますが、詳しいことはまだわかっておりません。

以上です。

◎議長（林 豊君） 3番議員。

◎3番（田沢勝信君） それと、この工業団地の整備、これをどのぐらいかけて行おうとしているのか。現在では調査をしていくんだ。県とも協議をしていくんだということでございますけども、これはもちろん道路網の整備だとか、水がきちんと整備されたとか、そういった条件がなければ、こういった工業団地をつくっても企業が来ないわけで、そういったことを踏まえた工業団地の整備というふうに思うわけですけども、これはいつごろまでに完成をする予定なんですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 市といたしましては、今県でも5カ年計画を立てている段階でございますが、それにぜひ入れていただきたいというようなことを、1つは考え方があるわけでございます。もう一つは、そういったものをにらみながら、やはり平成7年度にできたら焦点を合わせていきたい、こういうような考え方でございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 3番議員。

◎3番（田沢勝信君） 2つ考え方が示されたわけで、わからないんですが、館山市として平成7年に間に合うようにやっていくという考えなのか。それとも、第2次の基本計画に入っていればいいと、そういった考え方なのか、市の考え方を聞かせてほしいというふうに思いますが。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 平成7年に通水が行われる。あるいは道路交通網の整備等が行われる。そういうことから考えまして、できたらそれに焦点を合わせていきたいというような考え方を持っております。

◎議長（林 豊君） 3番議員。

◎3番（田沢勝信君） わかりました。

私は、企業誘致について、この間いろんな半導体工場の誘致含めて、誘致そのものには反対ではありませんが、やはり環境をきちんと守っていく、あるいは公害を出さない。そういったことを厳密にしながら、しかも市民が一番不満を持っておられる雇用機会がとにかくない。とにかく外に出なければ、魅力ある仕事にはつけない。こういった状況は、やはり早急に改善していく必要があるんじゃないかというふうに思っておりますので、今後十分行政の方を監視しながら見守ってまいりたいというふうに思っております。

それから、第2点目の東口の再開発の問題についてでありますけども、今までなかなか特に地権者の理解が得られない。そういった状況があったわけですが、なかなか賛同してくれない地権者とも、今回は12月に2回会って、そこにも来られない方は戸別にお会いした。そういったことで、前と違って、全く市とはテーブルに着かないといった時期もあったというふうに思いますけども、それよりは一步前進を見ているのかな、そういった印象を受けます。さらに一層、私どももたびたび地権者の皆さんに話を聞きますと、いろんなこの間の成り行きがあったものですから、どっから市の方とコンタクトを持っていいいのか非常に迷っている。そういった地権者の皆さんも実際にはいらっしゃいますので、ぜひ今後とも市の方としても積極的に、今まで反対されてきた方々とも接触を持っていただきたいというふうに要望をしておきたいというふうに思います。

それから、3番目の水源保全の問題についてでございますけども、先ほどの答弁ですと、県に市の方から意見書を提出して、いわゆる水源保全のために県から指導してもらうんだ。そういった答弁があったわけでございますけども、この意見書の内容はどういった内容ですか。

◎議長（林 豊君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） お答えいたします。

意見書の内容でございますけども、砂利採取の認可の中で、水源についてのがうたわれているわけでございます。まず、水源に関する意見書といたしまして、採取場の一部は神余浄水場の水源の流域にあるため、土砂流出等による水源への影響がないよう万全の措置を講ずるということと、それからなお集中豪雨等不測の事態により水源に被害を及ぼした場合の復元措置等について、館山市と覚書を締結するようにというようなことでございます。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 3番議員。

◎3番（田沢勝信君） 私が非常に心配しているのは、確かに土砂が流れてこないようにきちんとしなさい、そういった意見書を出しているということなんですが。確かに現場を見てもみますと、土どめがつくってありますね。それで、土砂が直接は流れてこないとは思いますが、実は土どめの中に穴があいて、そこから水が出るようになっているわけです。その水というのは、ずうっとまた館山建材さんの奥の方の山で砂を取っていますから、そこにたまった水を土どめのところに、深い池みたいになっているんですが、そこにホースで水を引っ張ってきて、その濁った水が神余川に直接流れているわけです。当面、土砂を採取した後の水ですから問題はないかとは思いますが。

心配するのは、実は今から4年ぐらい前、館山建材さんがあそこに産業廃棄物の処理場をつくりたい、こういった経過がございましたよね。私は、あそこの川に直接館山建材さんの排水を流した、たまった水を流した、こういった現状があると、恐らく県とは産業廃棄物の処理場、これは事前協議あきらめたのか、やめたのかわかりませんが、当時の市長さんの答弁では、事前協議がされていて、県からも問い合わせがあって、市としての意見書も

出しているんだ、こういった経過がございますから、やはりあそこの事業場から直接川に水が流れ込む、流し込む、これいかなものかなというふうに変心配しているわけですが、その辺はいかがでございますか。

◎議長（林 豊君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 濁った水を川に流すのはいかがかというような御質問でございますが、神余ダムは作名ダムのように本格的な構築をしたダムではございませんので、総貯水量1万 1,000トンで、川をせきとめた止水ダムでございます。上流の集水面積は作名ダムの1.07平方キロ、ほぼ同じでございます。過去13年間のデータでは、年間平均流量 4,300トンが流れてございます。神余ダムからの取水は 500トンないし 1,000トンでございます。すんで、3,000トン余りが河川の流量としてございます。したがって、影響はないと考えられますが、ダムの上流でございます。万全の措置を講ずるため、今後とも定期的に監視をし、なおそういった濁った水を流すようなことがあれば、即さま申し出て、そういったことのないように今後も十分監視をしていきたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 3番議員。

◎3番（田沢勝信君） 濁った水が直接流れております。この辺は早急に対処をしていただきたいというふうに思います。あわせて、川と事業場が直結するような状態になりましたので、産業廃棄物の処理場は、ぜひ今後とも規制をしていただきたいというふうに要望しておきたいというふうに思います。

それと、第4点目に移りますが、都市公園の整備についてでありますけども、ウエルネスパーク大体 150ヘクタールですか、そんな規模で整備をやっていくんだ。具体的な内容は今後、調査委員会がつくられていて、その中で煮詰めていくんだ。そういうことでございますので、関連してお尋ねしたいんですが、当然ウエルネスパークの中に民間が受け持つ部分あるいは市が受け持つ部分があるかと思うんですが、この 150ヘクタールというのは、市が都市公園として整備する面積ですか。



◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） その中には、民間施設も一部は入ってくるということが考えられます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 3 番議員。

◎3 番（田沢勝信君） そうすると、市の方が都市公園として整備する面積は、どのぐらいを考えておられるんですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 現時点では、そこまで面積的にもまだ詰まっていない状況で、絵だけの状況でございますので、これから細かく数量が出ていくということでございます。

◎議長（林 豊君） 3 番議員。

◎3 番（田沢勝信君） 詰まっていないということなんであれですが、それではこれに関連してもう一点だけ確認をしておきたいというふうに思うんですが、リゾート開発に伴う公園整備ですよ、これは。それで、どちらかというリゾート開発、これは県主体というふうに非常に私は印象を強く受けるんですが、このウェルネスパークですか、この中にできる都市公園、これの事業主体は県が中心になるんですか、それとも市が中心になりますか、どちらですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 今の段階では、どこということがまだ言えないんですけども、市といたしましてはできるだけやはり国や県にも乗っていたいて、そして共同でやるとか、あるいは国なら国の事業でやっていただくとか、県営の事業でやっていただくとか、そういうようなことにしてもらいたいということで、いろいろ折衝を持っているわけでございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 3 番議員。

◎3 番（田沢勝信君） わかりました。

それで、最後の質問、学童保育の関係について何点か確認を含めてお尋ね

したいんですが、先ほど私聞き逃したんですが、対象児童が1年が39、2年生が55名という数字出されましたが、これはいわゆるかぎっ子というような子供たちの数ですか。そういうふうを考えてよろしいんですか。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） これは、ごく大ざっぱといいますか、調べたことでございまして、おっしゃるとおりかぎっ子調査ということでもってやったこととでございます。

◎議長（林 豊君） 3番議員。

◎3番（田沢勝信君） 教育委員会にお尋ねしたいんですが、毎年新入生が入学する前に、父兄に対していろいろ調査をされると思うんです。実際に共稼ぎであるのか、帰った場合に子供たちがどうしているのか、こういった調査があると思うんです。この調査結果でよろしいんですが、本当にかぎっ子が市内全体で1年生が39名だけですか。2年生が55名だけですか。確認願いたいんですが。

◎議長（林 豊君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） これはつい最近、御質問がありましたから、急いで調査した結果でございまして、確にかぎっ子か、そこまで確認はしなかったんでございますけども、学校の方からありました報告によったものでございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 3番議員。

◎3番（田沢勝信君） 私の方でかぎっ子——どういう状態をかぎっ子というのか、厳密に言えばよかったんでしょうが、実は私が学童保育をぜひ実施してほしいというのは、2つの状況があると思うんです。保護者が、せっかく今まで保育園で面倒見てもらってきたのが、保育行政が切れて新入生になれば、当然1年生早くお帰りになりますから、その子供さんをだれに預けようとか、昼間どうしようかとか、本当に留守ができるんだろうとか、大変な苦勞されて、近所の人をお願いしたり、あるいはかぎっ子同士の父兄の中で見合ったり、現状そういうふうにして解決をしながら、婦人は働いて

いると思うんです。それができなくて、私のところも多かったんですが、全く子供をうちに追いかぎっ子にしてしまう。こういった状態もあると思うんですが、私は広い意味で共稼ぎが大変ふえていますから、婦人が今までどおり働いていかれる。しかも、子供さんについて余り心配をしなくてもいい。そういった状態を何とかつくり上げる必要があるんじゃないかというふうに考えるんです。だれでも親であれば、やりくり算段して過渡的に見てもらう方を探しますよね、やはり。それができない数が今言われた39名、59名という方だと思うんです、厳密の意味で申し上げますと。

ですから、私は再度、婦人がきちんと働き続けていかれる、安心して続けられる、そういった状態を援助していくためにも、ぜひ当面調査をしていただいて——少なくとも保育園が大変多い地区、園児が大変多い地区がありますね。例えば那古あるいは北条関係、あるいは館山関係——館山ではそういった子供さんを見てもらえる状態もあるようには伺っておりますけども、少なくとも市の中心部にはぜひ学童保育ができる、子供さんを預けられる、安心して働ける、そういった施設をぜひつくってほしいというふうに要望いたしまして、私の質問を終わります。

◎議長（林 豊君） 以上で3番議員田沢勝信君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午前11時44分 休憩

午後 1時02分 再開

◎議長（林 豊君） 午後の出席議員数26名、休憩前に引き続き会議を開きます。

次、7番議員生稻 陞君。御登壇願います。

（7番議員生稻 陞君登壇）

◎7番（生稻 陞君） 2日間にわたって皆様方大変お疲れのことと思えますけども、私、大した質問ではございませんけど、皆さんしばらくの御辛抱を願いたいと思います。よろしくお願いします。

私は、既に通告申し上げてあります総合病院建設について並びに農業振興計画について及び公道の占拠についての3点について質問いたします。

第1、総合病院建設について、我々人間はこの世に生を受けた者は、安らかに生まれ、健やかに育ち、ほがらかに働き、和やかに老いて土となることが最高の幸せであります、避けて通れないことがあります。いわゆるアクシデント、すなわち病気、けがでございますが、そのときだれもが頼るのが病院でございます。夜間、休日、時間を問わず発病するものでございます。そこで、充実した総合病院が必要と思います。総合病院建設については、過去先輩議員が質問されていますが、昭和60年の3月、62年の12月、63年の9月、平成元年9月、その答弁は異口同音、安房地域医療協議会と安房医師会との連携を図りながら対処することでした。私は、そこで新しい病院の建設ではなく、安房医師会病院の充実拡大を図ることが、市民に報いることになろうかと思ひます。安房医師会病院は、今の場所では手狭となり、昨年館山市正木地先に土地を求めて交渉に入りましたが、農地、田畑と価格の点で失敗に終わりました。

参考までに申し上げますと、昭和63年4月から平成元年の3月まで、館山市民が亀田総合病院、入院、外来患者として8,615人、君津中央病院に入院、外来患者が557人、計9,172人あります。これだけの市民の患者さんの時間、交通費の浪費は膨大なものがあるかと思ひます。市内に総合病院があれば、この点解消されると思ひます。上記の観点から御賢察くださいます、市長さんとして土地のあっせんをの勞をとっていただければ、市民はこの上もない幸いでございます。いかがなものかお伺ひいたします。

第2、次は農業振興対策の計画についてでございますが、先日先輩の石井議員さんの方から質問があったと思ひますけれども、重複する点が多々あるかと思ひますが、私自分の勝手に申しわけないですけど、きのう欠席しましたから、もう一遍答弁の方をお願いいたします。元來農業は年じゅう休みなく生産が続き、労働力を完全燃焼し、高い生産力を上げ、理想的な職業であり、失業のない産業でしたことに特徴がありました。しかし、今や農業を取り巻く情勢は大きく変貌しようとしております。農家は生産と生活の両面から、そのあり方が大きく問われております。農産物の市場開放、畜産物の需給の不均衡の深刻化、そのような課題を克服するには、市はどのような農

業振興対策の計画をお持ちか伺いたします。

小さい2でございます。農家の推移について、第1種兼業農家、昭和52年には648戸、昭和62年に257戸、391戸の減少、第2種兼業農家が昭和52年には3,249戸、昭和62年には2,760戸、489戸の減少でした。専業農家、昭和52年に732戸、昭和62年に684戸、48戸の減少、平成元年度はどのような動向で推移していますか、伺いたします。

次に、第3でございますが、農業構造改善費用について、年々減反が増加され、また米価の引き下げされる中、改善した水田の収入で返済すべきものを、その田は減反では収入がなく、また高年齢者は作業ができず、返済すること不可能となっております。サラリーマンに月給を支払わずして生活しろというのと同じです。市当局へ申し上げてもいたし方ないことと思いますが、国、県に働きかけて延期または免除できないかどうか伺いたします。

4、農家の嫁、婿について、農家の減少は労働者の高齢化、後継者の不足、若者の農業離れ、一番問題となるのが嫁、婿問題、いわゆる不足でございます。当市で結婚相談所を行っておりますが、1年に何人くらいの申し込みがあり、その中で成立するのは何組くらいありますか、伺いたします。

また、今後どのような計画をお持ちか伺するものでございます。

5番、適地適作について、その地域、地域に合った農作物のいわゆる農業の団地化を図り、その中で切磋琢磨し、グレードアップに努力することが、外国産品に打ちかつこととなります。当市では、産地指定をする考えはいかにか伺いたします。

大きな3、公道占拠について、このことについては二、三日前解決しましたから、申し上げるまでもありませんけども、今後のため一応質問をいたしたいと思います。市長さんは、施政方針の中で、「道路交通網の整備については、交通体系のかなめであります国道127号館山バイパス及び八幡高井線が本年度中に完成し、全線が供用開始される運びとなっておりますが、これに伴い八幡高井線に接続する船形館山港線の拡幅を図るため、リゾート地にふさわしい沿道修景に配慮しながら基本設計を手がけ、事業認可を受けてまいりたいと存じます。また、東関東自動車道館山線及び主要地方道館山白浜

線のバイパス及び国道昇格の早期実現のために関係機関に対し積極的な働きかけを行ってまいります。さらに、生活に密着した市道等の整備については、改良、舗装及び河川、橋梁整備等を地域の実情に即して実施し、利便性、安全性の向上に努めてまいります」とおっしゃっておいりましたけども、この点については高く評価いたしております。

これから本論に入りますけども、我々は同じ館山市に住みながら、いわゆる僻地、山間部に住む者は公道、いわゆる里道を利用し、自分のうちへの出入りまたは農地への出入りに使用する耕作者7人の人たちの生活道路であり、産業道路でもあります。生活に密着した道路でありながら、機能を持たず、その公道を一個人が幅 2.4メートル、延長35メートルを占拠し、自分の敷地にして利用し、車庫、道路、道路はコンクリート舗装、門柱を立ててあります。地域住民が困り、話し合いすること数回、このことは昭和62年の8月より始めておいりましたけども、平成元年3月19日にようやく話し合いがつき、決着を見たかのように見えたが、2日後にその人から裁判すると申し出たので、2カ月待ちましたが、返事がなく、私が裁判所へ出向きお尋ねしたところ、公道は何年たっても時効が成立しないから、あなたの負けですよと説明をされたので、本人は申し立てしませんでした。

そこで、どのような方法があるか尋ねたところ、境界査定をしてから裁判するしかないとのこと。それが一番早い解決方法ですと教えていただきました。それで、私は建設省、県庁の土木部、館山土木へ相談し、いろいろと指導を受けましたところ、県では直接できないけども、館山土木へ連絡をとるからと言われ、4回境界査定するも結論が出ず、県立ち会いで県費で測量事務所を依頼し、ようやく平成元年8月決定、承諾書に全員9名が捺印いたしましたにもかかわらず、構築物の撤去もせず、関係機関に尋ねると、これは館山市が悪いと言い、建設省の言うことには、国のものは県へ、県から地方公共団体へ委任してある、法律で定めてある通称片仮名法律または一条法律と称している。この法律で適用対象となるものは、地方公共団体が管理する道路、公園、堤防、その他公共に用する土地、物件であることとの説明がありまして、公共物の不法占使用を排除するための法律であるとのことが言わ

れまして、このことについて一日も早く回復するよう指導していただきたい  
と思います、とありますけども、二、三日前これは解決いたしました。

また、無断占用使用に対する措置については、昭和42年3月4日、建設省  
事務次官から各都道府県知事あて通達が出されている。県からは公共団体が  
管理する。その際、管理条例を制定しなければならない。地方自治法第14条  
の2項で条例で定めることができると言われ、全国で3,245市町村あるけど  
も、その中820市町村は制定されておるとのことでございます。館山市も早  
く制定するお考えはいかがかお尋ねするところでございます。

以上、3点について御質問申し上げましたが、御答弁によりまして再質問  
させていただきます。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 生稲議員の御質問にお答えをいたします。

第1点は、総合病院の建設についてという御質問でございますが、安房医  
師会病院の関係につきましては、安房郡市住民全体の問題でございますので、  
安房郡市地域医療協議会の場で検討すべき問題と考えますが、市といたしま  
してもそのような要請がございましたら、できる限り協力をしてまいりたい  
と考えております。

次に、第2点、農業振興対策の計画についての御質問でございますが、第  
1点の農業振興対策につきましては、首都圏のリゾート地域として都市化の  
影響を受ける中で、温暖な気象条件を生かした園芸地帯としての発展を基本  
に、いわゆる観光農業の充実を図るとともに、特産物の産地化を促進し、あ  
わせて地場流通を推進するために、農業振興研究会を初めとする関係団体の  
意見を参考に、館山市農業の振興を図ってまいりたいと考えております。

2点目の農家の推移についての御質問でございますが、昭和62年と平成元  
年を比較しますと、総数では2,760戸から2,682戸と78戸の減となっており、  
うち専業農家は684戸から688戸と4戸の増となっております。また、第1  
種兼業農家は257戸から260戸と3戸の増となっており、第2種兼業農家に  
つきましては、1,819戸から1,734戸と85戸の減となっております。

次に、3点目の農業構造改善費用についての御質問でございますが、土地改良事業にかかわる償還金の返済が困難である土地改良区が、農協等の資金を利用し、償還金の円滑な返済を図ることとした場合は、これに対し県が利子補給する事業が制度化されております。また、安房農林業振興協議会を通じ県に対し、土地改良事業の補助率のアップ、制度資金の長期無利子等による受益者負担の軽減等について陳情したところでございますが、引き続き軽減等をお願いしたいと考えております。

4点目の嫁、婿についての御質問でございますが、館山市の結婚相談につきましては、昭和63年度の申し込みは97名、うち農業2名であり、成立組数は4組で農業はございません。また、元年度の申し込みにつきましては、12月末現在で52名、うち農業はございません。この後継者対策につきましては、千葉県南総農業青年研究所及び農業改良普及所を初め関係機関の協力のもとに推進してまいりたいと考えております。

5点目の適地適作についての御質問でございますが、農産物の産地間競争が激化する中、館山市の温暖な気候を生かした施設園芸を主軸とする園芸地帯としての発展を図るために、地域特産物の産地化が急務と考え、現在農業振興研究会にお願いし、検討している段階でございます。

次に、第3点、公道の占拠についての御質問でございます。まず、里道の管理条例の制定についてでございますが、里道の管理には国有財産法による財産の管理と地方自治法による機能管理とがあり、前者は現在県が建設省から委託され、後者は市町村が行っているのが実態でございます。里道の管理条例につきましては、千葉県内の市町村では制定されておられません。これは、国の行革審においても、里道に対する考え方が、大蔵省、建設省それぞれ見解の異なる中で、千葉県としては財産管理まで市町村に権限委譲することは考えておらず、市町村独自の管理条例には難色を示しております。館山市におきましても、機能管理における条例の制定につきましては現在考えておりません。里道の中の生活関連道路につきましては、原材料交付制度によって対応しているところでございます。

次に、市が実施する道路改良等の工事につきましても、おのこの地域の



実情に対処する中で、緊急度の高いものから優先的に決定し、地域的なバランスも考慮した上で、年次的な計画を立て実施しており、今後も地域住民の住環境の整備に努力してまいり所存でございます。

以上、答弁を終わります。

◎議長（林 豊君） 7 番議員君。

◎7 番（生稲 陸君） おおむね了解いたしましたけども、二、三再質問させていただきます。

総合病院の関係ですけども、9,172名のこの方々の医療費は大体どれくらいありますか。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） これは、国保関係だけでございますが、亀田総合病院で63年度中に支払った医療費としまして4億3,578万5,490円、それから君津中央病院につきましては、2,834万8,300円、これは本人負担も含めて10割相当でございますが、以上でございます。

◎議長（林 豊君） 7 番議員。

◎7 番（生稲 陸君） それと、消防署の緊急を要する出動について、いろいろあると思いますけども、いろいろというのは海でおぼれたとか、そういうものもありますけど、要するにけがと急患で大体何人ぐらい、何回ぐらい出動がありましたか。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） これは、広域市町村圏でやっているわけでございますが、安房郡市全体では、これは63年1月1日から63年12月31日までの救急出動でございますけれども、安房郡市全体では急病が1,558件、交通事故が896件、一般の負傷が363件、その他が385件、合計3,202件でございますが、館山消防署と西岬分遣署に配置されています救急車、この状況で見ますと、これは館山消防署の場合には白浜町ですとか、三芳村ですとか、富浦町までも出ていますので、これが全部館山市の関係ということではございませんが、館山消防署、西岬分遣署の関係では、急病が706件、交通事故が391件、一般負傷が166件、その他204件の1,467件、このようになって

おります。

◎議長（林 豊君） 7 番。

◎7 番（生稻 陸君） 農業問題は大体了解いたしましたけども、公道占拠についてでございますけども、管理については館山市の関係じゃない。要するに県の関係だと申しますけども、県の関係であれば、なぜ工事申請書というものを館山市へ上げなきゃならないんですか、その点ちょっとお伺いします。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） この里道管理につきましては、いわゆる先ほども市長さんの方からお答えがございましたように、国有財産法によります財産管理というものと、地方自治法によります機能管理というものと2つに分かれるわけでございます。そのうち機能管理に属するものは、いわゆる市町村が県の方から任されておるということで、その里道に例えば側溝を布設しますよというような場合には、どのような形でどこにというようなことで申請を出していただきまして、そして市がそれでいいよということになりますと、資材交付なりをして、そして地元で設置をしていただく、このような取り計らいになっておるわけでございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 7 番。

◎7 番（生稻 陸君） そうしますと、占拠した人が、いろいろの本や法律を見ると、機能できるように回復しなさいと言われてるんだけど、我々道を使う側の方の者が、なぜそれを申請してやらなきゃいけないかという点をちょっとお聞きます。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） それにつきましては、いわゆる不法占拠しておる、不法に利用しているといえましょうか、そういう方が設置をするということではなくて、つまりその農道を利用しようという、改良しようという、そういう立場にある人たちが御相談をなさって、そして市の方に資材交付、そういったものを依頼してきたので、そこで市ではその人たちに対してその

設置願を出して、そして許可をする、こういうような運びになるわけでございます。

◎議長（林 豊君） 7番議員。

◎7番（生稲 隆君） 使う人がそれを申請するということですけども、いろいろ市道でも、県道でも、そういう道路については、仮に水道を入れるとか、そういうもので工事した場合には、修復というか、それは全部水道を引いた人が直すか、あるいは故意に壊す人はないけども、壊した人が直すということになっているんだけど、里道についてはなぜ占拠した人がそれを申請しなくて、我々通る利用者がしなきゃいけないか、ちょっと矛盾があると思うんですが、その点ちょっとお聞きします。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 確かにおっしゃるようにそういう御懸念があるかと思えますけども、やはり資材交付をして、それをどのような形で布設されるかというような関係から、やはりそういう布設の設計といいたしうか、方法を図面にまとめていただいて、そして出していただくのが最も至当だということで、お願いしているわけでございます。

◎議長（林 豊君） 7番議員。

◎7番（生稲 隆君） それについてはわかりますけども、申請書なるものが添付書類や何か、これ全部つけるんです、五つばかり。ちょうど五つつけるんですけども、その中にやはり図面をつけるところがあるんですが、これは免許のある方でなければいけないということになるというと、やっぱり土地家屋調査士とか、そういう人たちにお願いしてやる以外にないと思うんですけども、この点ただでできないんです。やっぱりある程度の金額を支払ってお願いして出すものなんですけども、だからちょっと矛盾があると思うんです。占拠した方は長年にわたって使っているんで、その人がもとどおりに直してくれれば一番いいかと思うんですけども、そのような指導はできないものかどうかお伺いします。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） その場所がいわゆる不法占拠されておった、

そこにもともと側溝とかが布設されておったものを、故意に自分のものとして、不法占拠してしまったという場合になりますと、やはりおっしゃるようなことが出るかと思いますが、そういうものがなくて、自然、自然と長い間のうちにそれを不法占拠に入ったというような場合ですと、新たにそこに側溝とか、道路とか、そういうものをつくるということになりますと、やはりなかなかそこまで不法占拠をしていたから、あなたおやんなさいということも、ちょっと私の方では言い切れませんで、実際にそこに布設して利用なさる方をお願いをしているというのが現状でございます。

◎議長（林 豊君） 7 番議員。

◎7 番（生稲 陞君） わかりました。

要するに、私先ほども申し上げましたけども、私の方は山間部でございますので、そういう場所が、各家庭全部と言っているくらい里道を使っておりますから、そういう点を今度やはりよく指導していただいて、また直すものは直していただいて、そのようにやっていただくことを要望して終わります。

◎議長（林 豊君） 以上で7 番議員生稲 陞君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

#### 議長の報告

◎議長（林 豊君） この際、申し上げます。議案第8号、歳入歳出予算事項別明細書及び議案第21号、債務負担行為調書補正中、一部印刷の誤りがあり、訂正されたいとの申し出がありました。お手元に配付の平成2年第1回市議会定例会正誤表により御了承を願います。

#### 散 会 午後1時38分

◎議長（林 豊君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明10日及び11日は議案調査のため休会、次会は3月12日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

この際、申し上げます。平成2年度各会計予算に対する質疑通告の締め切りは3月12日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問